

2024年度 自己評価 及び 施設関係者評価

2025年2月

社会福祉法人 護念児会
幼保連携型認定新通こども園

※評価基準 A：できている B：概ねできている C：あまりできていない D：できていない

領域		評価項目	保育者評価	保護者評価	自己評価についての園の説明
組織運営	1	特色ある園づくりを目指し、職員が協力し合う体制を作っている。	B (3.02) SD:0.5	B (3.7)	保育者と保護者の双方から概ね良い評価を受けた。遊びを中心とした保育を実践するとともに、会議や研修を通じて職員間の連携を深め、互いに学びながら、子どもの興味や関心に沿った保育の実践に努めています。しかし、園の特色を明確にし、職員全員が共通の方向性をもって取り組む体制の確立には、依然として課題が残っています。
	2	子どもや園の実態、保護者や地域の意見・要望等を踏まえて教育目標を設定し、重点化された中・短期の目標が示されている。	B (3.0) SD:0.52	B (3.7)	保育者と保護者の双方から概ね良い評価を受けています。子どもや園の実態に応じて全体的な計画を見直しながら、社会的ニーズの実態も考慮し、計画の作成を進めています。
	3	事故やトラブルに対して、組織的、迅速に対応できる体制を整えている。	B (3.29) SD:0.55	B (3.51)	保育者と保護者の双方から概ね良い評価を受けています。事故や怪我が発生した際には、看護師を中心に対応を行い、保護者への連絡や職員間での情報共有を徹底するなど、組織的な対応を整えています。
	4	働き方改革、ハラスメント、職務規律を意識して、職員の勤務体制・意識の改善を図っている。	B (3.02) SD:0.5	B (3.57)	保育者と保護者の双方から概ね良い評価を受けています。職務規定や勤務体制については、年度末に職員へ周知を行っています。また、働き方改革の一環として業務量の削減も進められており、昨年度と比較すると少しずつ改善が見られます。しかし、一部の正規職員においては負担の軽減が十分に進んでおらず、さらなる改善策が求められています。
	5	管理職の明確なリーダーシップのもと、保育者が生き生きと働いている。	C (2.93) SD:0.54	B (3.63)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を受けています。相談や困りごとについては主幹に報告・相談し、情報を共有する体制が整備されており、クラス担任の負担は軽減されつつあります。また、運営会議などを通じて組織改革を進めるとともに、職員体制や園の方向性について話し合いを重ねています。しかし、リーダーシップを發揮しながら組織的に取り組む体制には依然として課題が残っています。
	6	園の財務運営状況が適切に公開されている。	C (2.62) SD:0.75	B (3.34)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を受けています。財務運営の状況は園のホームページで公開されていますが、保護者や職員への周知は十分ではありません。
園の理念・保育方針	7	教育及び保育理念、保育目標、目指す子どもの姿、園の全体的な計画に目を通している	C (2.78) SD:0.58	B (3.75)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。園の保育理念や保育目標については、年度末に職員へ周知を行っています。しかし、日々の業務の中で、理念や目標の読み合わせや内容のすり合わせを行う機会が不足しており、職員間で意識を共有する仕組みづくりが課題となっています。
	8	子どもの人権を守る意識をもっている(命を守られ成長できること、子どもにとって最もよいこと、意見を表明し参加できること、差別のないこと)	B (3.22) SD:0.53	B (3.83)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。日々の保育の中で、子どもにとって最善の利益が保障されるよう、職員間で意識を共有しながら保育実践に取り組んでいます。また、子どもが安心して安全に遊べる環境づくりにも努めています。
	9	子どもを一人の人として尊重し、常に肯定的に関わる意識を持っている	B (3.19) SD:0.52	B (3.83)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。大人自身が心地よいと感じる関わりや言葉かけを意識し、活動の中でも子どもと対等な立場で対話できる関係づくりを大切にしています。
	10	子どもの生活と豊かな遊びを保障し、見通しをもって生活が送れるように流れる日課を整えている	B (3.03) SD:0.45	B (3.85)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。子どもたちが迷うことなく安心して行動できるよう、日々の生活リズムをできるだけ一定に保つことを心がけています。
	11	子どもの持っている力が十分発揮できるよう環境を整え援助できるよう心がけている	C (2.61) SD:0.6	B (3.88)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。子どもたちの発達や興味・関心に応じて、保育環境や玩具の工夫を行っています。しかし、学年に応じた対応が重視される傾向があり、個々の発達に寄り添った支援の面では課題が残っています。

12	主体的に行動できる力を育むために、子どもが自ら遊びたくなるような環境を構成している	C (2.61) SD:0.6	B (3.88)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。各年齢の子どもたちの興味・関心に応じた環境を整え、育みたい課題に沿った玩具や活動を保育者が工夫して提供しています。しかし、大人の意図が強くなりすぎないよう、子ども主体の保育を意識することが求められます。
13	子どもの意思で判断できる気持ちを大切にし、思いを聞き自分で考えられるように関わっている	C (2.95) SD:0.57	B (3.77)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。保育者が答えを提示するのではなく、子どもたちが自ら考え、決定できるように、子どもの言葉をしっかりと受け止め、一緒に考える姿勢を大切にしています。
14	互いに尊重し合える関係性を育むために、子どもの話を聞き、共感している	B (3.08) SD:0.49	B (3.77)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。まずは子どもの話をじっくりと聞き、「自分の話を聞いてもらえた」という経験を積めるよう心がけています。その上で、子どもたちと対話ができる関係の構築に努めています。
15	否定的な表現ではなく、肯定的な表現で伝え、言葉を常に手渡すことを心がけている	C (2.68) SD:0.58	B (3.73)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。子どもの姿をマイナスではなくプラスの視点で捉えることを心がけています。しかし、保育者間の会話の中で否定的な言葉が聞かれる場面もあり、日常的なコミュニケーションにおいても前向きな視点を意識することが求められます。
16	子どもに経験してもらいたい活動を保育者側の価値観ではなく、子どもの発達過程に即した援助を最優先している	C (2.53) SD:0.56	B (3.75)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。保育者の「やらせてあげたい」という価値観が優先される場面はまだ一部見られますが、子どもと話し合いながら活動を進める機会は増えてきています。
17	子どもと保育教諭は対等な立場であることを認識し、子どもと上下の関係や依存の関係にならないように心がけている	B (3.11) SD:0.39	B (3.75)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。子どもを一人の人格を持つ存在として尊重し、大人がされて嫌な言動は行わないよう心がけています。また、子ども一人ひとりの発達に応じた関係性や適切な距離感を大切にしながら関わるよう努めています。
18	保育者同士、保育者個人を尊重しあいの違いを認めながら子どものために協力している	B (3.14) SD:0.48	B (3.52)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。しかし、日々の業務に追われる中で、職員間のコミュニケーションが不足してしまう場面も見られます。今後は、職員同士が十分に対話できる時間を確保し、円滑な連携を図ることが課題となります。
19	多様な保護者の価値観があることを理解し、個々の保護者の思いに応じた支援を心がけている	C (2.89) SD:0.62	B (3.69)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。保育者自身の価値観に偏るのではなく、多様な背景や価値観があることを意識し、それぞれのニーズに応じた支援が行えるよう努めています。
保育内容・健康・安全	20	保育の計画の作成にあたっては、子どもの発達過程や興味・関心を十分に把握した、ねらいや内容になっている	C (2.7) SD:0.59	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。保育の計画を立てる際には、例年のものを踏襲するのではなく、その時の子どもの発達や興味・関心に応じて、ねらいや内容を見直していくことが必要だと考えています。
	21	子どもの活動内容や結果だけでなく、取り組む過程での子どもの心の育ちや意欲を大切にしている	B (3.06) SD:0.47	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。行事などにおいては、当日の実施だけでなく、準備や取り組みの過程も子どもたちが楽しみ、さまざまな経験ができるよう工夫しながら保育を行っています。
	22	多様な子どもに合わせた支援について、職員間で共有し、適切な支援が行えるように心がけている	C (2.81) SD:0.66	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。園内では定期的に保育ミーティングを行い、情報共有を図っています。しかし、保育者の捉え方によって支援の度合いにばらつきが生じることがあり、園の方向性を統一しながら継続的な支援を行うことが今後の課題となります。
	24	自らの実践の振り返りを行い、その結果を次の保育の計画に活かしている	C (2.54) SD:0.56	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。年に2回、自己評価表を活用し、保育者自身とクラスの保育の振り返りを行っています。しかし、その振り返りを実践に活かすことや、職員間で共有しながら改善を図ることが今後の課題となります。
	25	子どもの健康状態を常に把握し、異常が見られた時には、保護者と情報を共有したうえで、適切な対応をしている	B (3.08) SD:0.6	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。看護師が毎朝、各クラスの子どもの健康状態を把握する体制を整えたことで、より丁寧に健康管理を行うことができるようになりました。また、看護師からの助言を受けることで、子どもに異常が見られた際には、保護者へより的確かつ丁寧に状況を伝えられるよう努めています。
	26	「食べることは生きること」という理念に基づき、日々の食事を大切にしている	B (3.14) SD:0.6	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。給食部門が作成した食育計画に基づき、計画的に食育活動を実施することができます。今年度の振り返りを活かし、来年度も引き続き積極的に食育活動を推進していきます。
	27	自然災害や火災・不審者に備えて職員間で確認し、非常時に何をどのようにしなければならないか理解している	C (2.68)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。月に1回の避難訓練では、職員間で役割の確認を行っています。

		「保育者に対する評価」	SD:0.58	(3.61)	「今後は、双方向でより効率的な情報を交換する機会を設けたいと考えています。」
家庭・地域・関係機関との連携等	28	年齢に応じた環境構成や援助のもと、ケガや事故に気をつけている。ヒヤリハットは記録し共有している	C (2.43) SD:0.78	B (3.53)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。ケガや事故、ヒヤリハットの報告を行い、再発防止に努めています。 しかし、これらの事例の分析や、それを活かした研修会の実施にはまだ至っていません。今後は、報告内容を分析し、安全管理の向上につながる取り組みを強化していきたいと考えています。
	29	開かれた園作りを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている	B (3.0) SD:0.56	B (3.65)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。園の保育についてはHPで発信していますが、定期的な更新が行われていないため、実際の園での様子を十分に伝えきれていません。今後は、より効果的に情報を発信できる方法を検討し、園の活動を積極的に伝えていくことが課題となります。
	30	家庭・地域社会と連携、協力し、より安全で豊かな教育活動を目指している	B (3.09) SD:0.51	B (3.65)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。夏祭りのバザーでは、地域の方々から野菜を提供していただき、保護者の方々による販売が実現しました。 今後は、園と地域がさらに連携し、子どもたちの教育活動に結びつく具体的な取り組みを検討していきたいと考えています。
	31	幼保こ・小連携教育の視点にたった教育活動を推進するために、小学校との連携を具体的に図っている	B (3.04) SD:0.52	B (3.49)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。一年生との交流会や入学に向けた連絡会は実施していますが、小学校と連携したカリキュラムの作成には至っていません。今後は、小学校との協力体制を強化し、円滑な接続を図るための取り組みを進めいくことが課題となります。
	32	保育者の専門性を生かし、保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるような支援を心がけている	C (2.79) SD:0.55	B (3.71)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。送迎時やルクミーでのやり取りを通じて、日常的に保護者とお子さんの様子を共有し、保護者の不安を軽減することに努めています。 しかし、専門性を活かした発達や子育てに関する情報発信が十分に行われておらず、今後はこれらの発信を強化していくことが課題となります。
保育者の倫理・姿勢・資質向上	33	保護者の状況に応じて必要な保育を実施し、子どもの育ちを考慮しながら、適切な支援を行っている	C (2.78) SD:0.54	B (3.15)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。子ども一人ひとりに合わせた対応は行っていますが、保護者ごとに異なる背景や、子どもの成長の違いをより深く理解し、それを踏まえた対応ができるよう、保育者の意識を高めていくことが今後の課題です。
	34	保育者としての責務と誇りを自覚し、人間性と専門性の向上に努めている	C (2.89) SD:0.57	B (3.78)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。保育者にとって、人間性は非常に重要な要素です。自身の言動を振り返りながら、保育者としての責務を果たし、専門性をさらに高めていくために、今後も積極的に研修などに参加するよう努めています。
	35	他の保育者から見て、不適切だと思われる言動が無いように心がけている	C (2.95) SD:0.57	B (3.78)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。常に「子どもにとってどうだろうか?」と考えながら、適切な関わりを意識し、不適切な言動がないよう努めています。
	36	会議などでは積極的に意見交換を行い、保育者間で話し合いながら良好なチーム作りを心がけている	C (2.76) SD:0.49	B (3.52)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。年齢に関係なく意見を出しやすい雰囲気を大切にし、円滑に意見交換ができる会議の進め方を具体的に検討していきます。今後は、保育者同士が積極的に意見を交わせる場を整えていくことが課題となります。
	37	自身の身の回りや保育室の整理整頓を心がけ、園やクラスの備品の紛失がないよう責任をもって扱っている	C (2.73) SD:0.51	B (3.69)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。日々の業務に追われる中で、整理整頓が後回しになります。 しかし、整えられた環境の中で過ごすことで、子どもたち自身も整理整頓の心地よさを感じられるようになるため、環境の維持を意識して取り組むことが重要です。
	38	業務上知り得た園・職員・家庭の情報の取扱いに気をつけ、守秘義務を守っている	B (3.49) SD:0.56	B (3.73)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。園内で知り得た情報は、どんな些細なことでも外部に漏れることがないよう、細心の注意を払いながら取り扱っています。
	39	勤務前には身支度と心を整え、5分前には保育に入るよう余裕を持った出勤を心がけている	B (3.08) SD:0.8	B (3.69)	保育者、保護者の双方から概ね良い評価を得ています。自身にゆとりを持つことで、保育にも落ち着いて取り組むことができます。そのため、余裕をもった出勤を心がけるよう努めています。
	40	保育の計画作成や自身の保育実践の振り返りを行うことを心がけている	C (2.47) SD:0.51	B (3.66)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。計画・実践・振り返りを明確なねらいを持って保育に取り入れ、意識的に取り組んでいくことが求められます。
	41	自分の保育に対する同僚や上司からの意見を感情的にならずに聞き、自身の保育を振り返る機会としている	C (2.95) SD:0.52	B (3.52)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。多様な保育観や価値観があることを認めつつ、自身の保育に満足することなく、常に振り返りを行いながら質の向上を目指していくことが求められます。

42	保育実践や研修などを通して自身の保育の専門性を高めるとともに、他の職員と共通理解を図り協働性を高めている	C (2.75) SD:0.55	B (3.64)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。職員が受けた研修内容を共有する機会を設けることが必要です。 また、保育について職員同士が語り合う時間を確保し、コミュニケーションを深めることで、協働性を高められるよう努めています。
43	様々な研修への積極的な参加を通して保育者としての使命を自覚し、資質や能力の向上に努めている	C (2.49) SD:0.51	B (3.64)	保育者からは改善の余地があるとの評価を受けていますが、保護者からは概ね良い評価を得ています。職員が自身の興味・関心のある分野の研修会などに積極的に参加し、学びを深められるよう、園として時間や費用の確保を含めたサポート体制の整備を検討することが求められます。

【保護者の自由記述の概要】

多くの保護者の皆様から、子どもが楽しく園生活を送っているという感謝の声が寄せられました。特に、保育者との関わりや遊び、自然体験、給食などを楽しんでいる様子が伝わってきます。一方で、以下の点について改善を求める意見もありました。

1. 保育環境：物品の紛失防止対策、駐車場の整備、保育環境の透明性の向上（園の取り組みを知る機会の増加）。
2. 子どもへの対応：朝の登園時のサポート強化、怪我の多さへの懸念、キャラクター物の扱いに関する一貫した対応。
3. 保護者への情報提供：紙ベースの配布物の復活の要望、子どもの発達面に関する相談・説明・保育の強化、保護者が参加できる研修の開催希望。
4. 組織運営：風通しの良い職場環境の構築。

【園からの回答】

貴重なご意見をありがとうございます。お子さまが楽しく園で過ごしているとのお声を多数いただき、大変嬉しく思います。
改善点について、以下のように対応を検討してまいります。

1. 保育環境の整備： 物品の管理体制を見直し、駐車場のライン補修を進めます。また、園の取り組みを伝える機会を増やします。
2. 子どもへの対応：朝の受け入れ体制を見直し、よりスムーズに登園できるよう配慮します。怪我の再発防止策を強化し、キャラクター物の扱いについては統一したルールを周知します。
3. 保護者との連携強化： 必要に応じて紙ベースの配布物を一部活用します。発達面に関する相談の体制の強化やそれに対する保育に関する説明を充実させます。また、保護者向けの研修会の開催を検討します。
4. 職員の働きやすさの向上： 風通しの良い職場環境を整え、意見交換の場を増やすことで、より良い保育を提供できるよう努めます。
今後も保護者の皆さんと協力しながら、より良い園づくりを進めてまいります。